

—— 総務委員会 ——

委員長 平尾稔幸
副委員長 宮崎正之
副委員長 川村弥恵子

1) 2012年度通常総会

- 2012年4月20日（金） 札幌全日空ホテル
支部総会 : 議案につき可決承認された。
総会員数164名 総会出席者 108名（内委任状57名）
- 記念講演 : テーマ 「J I A のこれから」 講師：芦原 太郎 会長
- 意見交換会 : 賛助会員及び来賓を交えて意見交換会を開催。

2) 新年交流会

- 2013年1月25日（金） 京王プラザホテル札幌
- 新年交流会 : 同日、賛助会主催の新年交流会に参加。 計96名
出席者正会員39名 賛助会員57名（38社）

3) 支部総務委員会

- 会員募集のためのリーフレット作成。
- 各事業への協力。
- 入退会に関する事務手続き＋会費未納に関する呼びかけ、勧告。

4) 本部総務委員会

本部総務委員会 5/17WEB 会議・6/14本部委員会・7/19WEB 会議・8/23WEB 会議・
9/13WEB 会議11/8本部委員会・12/13WEB 会議・1/17WEB 会議・2/14本部委員会・
3/14WEB 会議

入退会審査、会員増強、本部事務局スリム化、支部事務局体制強化、予算配分案など
特に法人形態移行（全国単一会体制の公益社団法人申請予定）に伴い、佐藤潤平が
規程類WG（総務委員会マター）・規程類特別委員会（理事会マター）に所属し、
公益法人申請に間に合わせるように規程類を整理した。

委員長 齊藤文彦

副委員長 中原隆一

副委員長 小倉寛征

本委員会では、

① 北海道建築設計会議の構成団体幹事

② 本部業務職能委員会委員

に加え、建築設計のリスク管理についての活動を行った。

何れも業務環境の向上と他団体との情報共有を目的としている。

①北海道建築設計会議（建築設計関連の10団体で構成している北海道独自の会議）、に毎月の参加活動を実施している。昨年度は計10回開催され、特に各団体の法人化情報や、各会の動向について情報交換を行った。現在、会共通のイベントをJIA大会にあわせて行えないか検討中です。

②本部業務職能委員会では、小規模建築についての利用を想定して作成したJIAの設計契約約款について、現行の法規上の問題がないかなど改正の必要性について議論していたが、4会連合の小規模建築契約約款が上梓されることとなり、最終の意見調整をおこなっている。

また、北海道開発局、北海道、札幌市、建築士会、建築士事務所協会とJIAによる公共建築設計懇談会(8月30日)および同幹事会(3月13日)に出席し、公共建築の設計者選定方法の情報交換、発注者の近年の取組みなどについて協議した。

全道の特定および限定特定行政庁、確認機関、適判センターとによる、全道建築確認円滑化会議にも出席し、近年の法令の改訂や建築確認の円滑化に関する確認の会議に出席した。

なお、建築設計に起因する訴訟等での設計者支援について活動の方法を模索している。数人の関係者にヒアリングを行ったが、具体例の検討をするにも守秘義務の問題があるなど課題が多い。また、他団体にも同様の活動があり、今後の対応については検討中。

委員会としては、今後も建築家の職能と業務品質の向上を目指し活動していく。

— 広報委員会 —

2012年度の活動報告

本年度は、広報担当、システム担当、出版担当に分かれて活動致しました。2013年の北海道大会を見据え、本年度は建築家カタログの製作を中心に活動し、出版担当は2012年5月より建築家カタログの製作に本格的に取りかかりました。皆様のご協力を戴き、おかげ様で、「建築家カタログ 北の住まいを建築家とつくろう vol.5～北の建築家との家づくり+αのDesign」を2013年4月末に発売予定です。今回は、北海道の建築家住宅の魅力をこのカタログを通して、出来れば日本全国の皆様に感じ取ってもらうことを旨に、道内だけではなく、関東以北の一般書店での販売も予定しています。

支部ホームページも引き続き、随時マイナーチェンジをしておりますので、皆様からお気づきの点、ご意見等をいただければ幸いです。

- 委員長 照井康穂
- 広報担当 副委員長：日野佳子
委 員：大坂崇徳、小倉寛征、小杉朋希、高尾浩宣、
平尾稔幸、湊谷みち代、山内圭吉
- HPシステム担当 副委員長：大塚達也
委 員：石塚和彦、沢田貞和
- 出版担当 副委員長：岡田順博
委 員：石塚和彦、大杉崇、灘本幸子、前川尚治

委員長 小杉 朋希
副委員長 山内 圭吉
副委員長 十河 昌司

1) 建築展・講演会・活動

本年度はセミナー系の主催が無かった。

・北のジュニアオープンデスク（教育委員会）

7月～：オープンデスク開催 帯広工業高校2人（（有）設計工房アーバンデザイン）
釧路工業高校1人（くりえいと創）

8月10日 同上交歓会・見学会開催 大成札幌ビル施設見学
上遠野支部長・豊山孝雄・小杉朋希

・高校生デザインコンクール

5月16日：北海道建築整備室主催第1回運営委員会参加（応募要項等についての審議）

9月19日：作品審査会 審査委員として遠藤謙一良氏

12月18日：北海道建築整備室主催第2回運営委員会参加（事業報告及び決算・次年度予算報告）

・北海道高等学校建築教育研究協議会参加（教育委員会）

10月25・26日：釧路工業高校にて（26日のみ参加） 小杉朋希

・5月18日 横河建出版記念講演会 会場手配等現地調整として参加

内田洋行 U-cala 約80名参加

・9月29,30日 札幌市イベント ミニ札幌 本年は技術提供のみ。

来年のJ I A札幌大会に向けた実行委員会へのサポート業務がメインとなると予想されるが、建築を伝えるセミナー等の開催が望まれる。

2) 第4回デスクチャレンジコンペ

第4回のJ I Aと(株)デスク共同主催の設計コンペに関して、大杉崇委員長とする実行委員会を中心として9月～3月までの公開審査までサポートを行った。

9月～：月1回の会議招集・運営（計9回開催）

11月15日：要綱発表

1月31日：登録〆切り

2月28日：応募〆切り

3月24日：公開審査 札幌駅地下歩行空間

5月10日（予定）：2012年度支部総会において表彰式予定

本年度審査委員長は 札幌市立大学 斉藤雅也 先生

審査員：(株)デスク代表取締役社長 櫻庭高光様・北総研 福島明様・上遠野克 支部長

・前回受賞者 清水郁江様・建築ジャーナリスト 登尾未佳様・J I Aより灘本 幸子

懸賞旅行に関しては(株)デスクが主導して手配予定

旭川地区

委員長 軽部 望
副委員長 北島 滋

- 1) 2012/9/25～10/8 「北海道現代住宅展」開催
会場：JR 旭川駅舎

- 2) 2013/2/8 講演会「2012木製サッシフォーラム」 協賛 CPD 認定プログラム
講師：北海道水産林務部、北方建築総合研究所、林産試験場他

- 3) 2013/2/14 発表会 第24回旭川建築作品発表会共催
第1部：卒業設計+修士設計発表～北海道旭川工業高等学校 建築科 (3作品)
～東海大学 芸術工学部建築・環境デザイン学科 (1作品)
東海大学大学院芸術工学研究科生活デザイン専攻 (1作品)
第2部：一般設計発表～ 剣淵町「つちのこ館」アトリエアク 井端明男氏
～ 美瑛町図書館 アイエイ研究所 佐々木司氏

通年 支部会議の参加と旭川会への報告・意見聴取
通年 新入会員の発掘

委員長 眞壁 喜男
副委員長 小野寺 一彦

■ 2012年 4月20日～4月25日

帯広の小野寺一彦：有限会社設計工房アーバンハウス企画で東海大学旭川校、クリエート株式会社、みどりサイクルの協力を得て「宮脇檀の建築」帯広展をソネビル本館にて開催しました。グリーンボックス等4つの作品模型、図面、写真と北海道唯一の宮脇檀作品である「伊藤隆一邸」の模型、図面を展示しました。



■ 2012年12月7日～12月9日

釧路の設計者の団体「月曜塾」と共催し釧路高専建築学科、釧路工業高校建築科、釧路白樺幼稚園と共に釧路市生涯学習センターにて「続々・集合！くしろ建築設計団+（プラス）」を開催しました。幼稚園児のブロックを使っての模型、絵画、学生の卒業設計、JIA道東地区会員と月曜塾員の作品パネルを展示しました。園児たちには「こども建築設計士」の免許が授与されました。



—— 函館地区 ——

委員長 小澤 武
副委員長 塚田 俊

1) 2012年12月～13年1月 新春のセミナーの企画、メーカーへの打診

2) 2013年2月6日(水) 9:30～11:30

日本オスモ(株)による「オスモカラー」セミナー-----木材用塗料
「ヴァレーニ」 ----外付けブラインドのセミナー

講師: 本社ディビジョン チーフ大黒氏

内容: BAU2013展示会のトレンド情報、床材のトレンドの変遷
コストの点でプリントラミネートフローリングが市場を席卷(2012年頃から)
参加者: JIA会員6名、建築家6名、木材加工メーカー1名 計13名

会場: サンリフレ函館1F 中会議室

小規模のセミナーであったが意見交歓が活発になされ今後に向けての顔合わせとしてはまあまあの成功であった。

- 1) 2012年11月2・3日に宿泊体験セミナー「身体感覚で学ぶ建築技術環境性能」を新さっぽろ保育園（小室設計）にて開催した。建物見学、東京都市大学宿谷昌則教授・札幌市立大斉藤雅也准教授の講演、夜中までの懇親パーティ、無断房での宿泊体験、翌日は旧荒谷邸等の見学会を行った。遠くは大阪・東京・神奈川県・茨城県・福島県・宮城県から合計124名の参加があり、約50名が宿泊体験に参加し、建築環境性能について学習した。
- 2) 第2回北海鋼機デザインアワードは32点の応募（2012年10月5日締切）があり、8作品を二次現地審査に選定、二次審査は2013年4月上旬実施、結果発表・表彰は5月10日支部総会で行う。
- 3) 環境行動ラボに関する活動報告
 - 省エネ法改正・2020年義務化に関して、木造伝統工法の適用に関する調査・検討、及びWEBプログラムの問題点について検討を行っている。
 - 公益法人化に伴い環境建築賞の要綱改訂を行い、また応募資料としている環境データ評価シートの改訂作業を行っている。
 - 環境省エコハウス事業の報告書出版作業を継続中。

（小室雅伸）

——支部建築家資格制度委員会——

委員長：大田 司 副委員長：中薮 則喜 大坂崇徳
委員：羽柴 功一、山之内 裕一、澤 康昌、岡田順博

■ 本部・資格制度委員会（WEB会議・横浜大会シンポジウム）

・月1回、資格制度のありかたについて、議論を行っています。横浜大会シンポジウムでは今後の方向性確認のために、資格制度の歴史を反芻し、他会とも協議しながら建築士法改正の方向を打ち出しましたが、芸術性や、建築家の国家資格を不要とする他会とは一枚岩にならないのではないか等、様々な意見が出ました。また、実務訓練正を育てていくことがこのシステムの主軸であるにもかかわらず、それがなかなか実現できていない等、解決すべき課題が抽出されました。

■ 実務訓練部会

・実務訓練生2名から提出された実務訓練経過報告書について2012年7月と12月の2度内容確認をし、支障なしとして本部に報告しました。
・年度末、実務訓練生の移動（独立、他分野への転職等）があり、独立する1名については、実務訓練を継続していくことを確認しています。残る1名についても新しい職場で、指導監督となる登録建築家、もしくは前職場の登録建築家のもとで訓練を受ければ登録建築家への道がまだあることをお伝えしており、（業態は建築設計監理に限る）現在ご検討いただいている状況です。

■ 登録建築家更新審査

2013年2・3月には、登録建築家更新審査を行いました。
今回の更新予定者は北海道支部全体で、予定者50名ですが、実際に更新の手続きをされたのは48名で更新率は96%でした。（2名は更新を希望されませんでした。）
2月28日、申請内容の調査を支部資格制度委員会で行い、支部認定評議会による審査を3月11日に行いました。評議会では、48名全員の更新要件審査を行い、CPD取得が不足する2名については更新保留とし、本部認定評議会へ審査結果を送付しています。
その結果3月29日の本部認定評議会で46名の更新が認定され、残る2名を3月31日時点でのCPD単位を支部で確認することで更新可能である採決をいただきました。
支部事務局調査により、3月31日時点で残り2名の単位取得完了が確認され、48名の更新が確定されました。

■ 登録建築家の新規認定審査

今回は、新規申請がありませんでした。今後のJIAの会員要件を登録建築家制度と合わせていくことから、申請資格のある会員は、登録建築家の資格取得するよう広報していくことが必要です。

以上、2012年度、支部建築家資格制度委員会の活動報告です。

—— 建築相談委員会 ——

委員長 奈良 顕子
副委員長 國澤 全克

2012年度内に、建築相談はありませんでした。

—— 災害対策委員会 ——

委員長 笹栗 達夫
副委員長 山道富美男

北海道の「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」の対応とJIA災害対策委員会の支部窓口の委員会です。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの震災が多くの被害をもたらし、多くの貴重な教訓を残しました、被災建築物による二次的被害を防止・軽減するための「応急危険度判定」が重要とされ、平成7年度以降、震災建築物応急危険度判定士の認定・登録や全国の判定協議会と連携が行われ、北海道でも各支庁の協議会や建築関連団体が協力して相互支援の連絡協議会の早期の設立が求められ「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」は2006年2月より活動をはじめています。

また、2013年12月からはJIA本部災害対策委員会と連携することとなり北海道支部の災害対策委員として笹栗が参加しており、JIA全体としての災害時の支援活動の枠の中に位置づけられるようになっていきます。今後、北海道支部の災害対策委員会の立ち上げを議論する必要があります。

■12年度活動報告

- 1月8日 WEB会議参加
- 2月13日 WEB会議参加
- 3月8日 WEB会議参加

—— 国際交流委員会 ——

委員長 小西彦仁

2012年度に国際交流に関する事業はありませんでしたが、2013年度の「JIA建築家大会 2013 北海道」での企画に向けて、カタルニア建築協会サイドと協議中です。

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2012

毎月の WEB 会議を行ない、全国 JIA の担当者の協力のもと自主費用により、新宿アイランドタワーBF1F・アクアプラザにおいて JIA 全国学生卒業設計コンクール 2012 開催致しました。

北海道支部から選出された 3 名、菅原仁美さん(北海道工業大学)、田中元君(北海道大学)、大谷宏司君(室蘭工業大学)が参加おしくも入賞はなりませんでしたが、各支部、地域会から選出された全国の作品を前に審査員、各支部地域会担当者、学生達が真剣な議論と評価を繰り返す、建築家が選ぶコンクールは、学生達の心に残る、全国で試される良いコンクールでした。

2012 年 6 月 22 日(金)作品搬入

6 月 23 日(土)公開審査、講評、表彰、懇親会

6 月 24 日(日)展示会、作品搬出

審査委員 北川原温(審査委員長)、今川憲英、野口秀世、小嶋一浩、平田晃久(敬称略)

2) JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール 2013 審査経過

2013 年 1 月 13 日 ワーキンググループにて日程、各大学、高専、短大、専門学校に案内を発送

2013 年 2 月 15 日 ワーキンググループにて審査員を確定

審査員長 中山 眞琴 (ナカヤマアーキテクト) JIA 会員

審査員 山内 圭吉 (山内圭吉建築研究所) JIA 会員

島中 秀幸 (スタジオシンフォニカ) JIA 会員

以上の三氏による審査を決定

3 月 23 日(土) STV 北 2 条ビル B1F 会議室において公開審査にて厳正な審査の基、審査員の投票結果をもとに協議し、金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 1 点、四位、審査員特別賞 3 点選出。

4 月 20 日(金) JIA 北海道支部総会において各賞の表彰状を授与予定。

公開審査風景



入賞者



—— 選挙管理委員会 ——

委員長 橋本 敏明

任期満了に伴う支部役員選挙に関して、支部幹事および監査改選選挙を実施した。2013年度は支部幹事のうち11名がまた支部監査のうち1名が任期満了につき改選となる。3月7日第1回告示を行い、3月15日立候補の届け出締切期日までに所定の立候補者の届け出がなかった。よって3月15日に改めて第2回告示を行い、3月27日締切期日までにそれぞれ定数の立候補届け出があり受理した。資格審査の結果、全員適合だったので次期幹事および次期監査として当選人に決定した。

—— 支部規約検討委員会 ——

委員長 橋本 敏明

今年度は、総務委員会と共同し、来年度日本建築家協会が公益社団法人に移行することに伴う「北海道支部規約」の見直し作業を行った。新しい「本部で定める支部規定」に合わせての支部規約のたたき台づくりにはじまり、コンサルタントの指導、本部における正副会長会議を経て「北海道支部規約（案）」を作成した。

—— 住宅部会 ——

住宅部会代表世話人 灘本 幸子
副代表世話人 前川 尚治
会計世話人 小尾 慎
広報世話人 大坂 崇徳
I T世話人 鷺見 健二
世話人 赤坂 真一郎
： 五十嵐雄祐
： 石塚 和彦
： 大坂 崇徳
： 大杉 崇
： 小杉 朋希
： 新貝 孝之
： 森 徳彦
監 査 真壁 喜男

- 2012年6月 7日 住宅部会総会開催
7月 3日 第1回 2012年度住宅賞 選考委員会 開催
選考委員：五十嵐淳・井端明男・上原 秀晃
遠藤 謙一良・大坂 崇徳・大杉 崇・前川 尚治
8月10日 第2回 2012年度住宅賞 選考委員会 開催
8月21日 第1回 住宅部会 世話人会 開催
9月 1日 JIA 北海道支部住宅部会 2012年度住宅賞 選考委員会による
応募作の住宅見学会開催
9月 7日 JIA 北海道支部住宅部会 2012年度住宅賞 住宅レビュー開催
及び受賞者の発表（会場：内田洋行 ユビキタス）

（アカシア賞1作品、フキノトウ賞6作品、ハルニレ賞3作品）

ハルニレ賞 ； 植田暁

（作品名）TU3

フキノトウ賞：石塚和彦

（作品名）SPROUT House in Nishimachi T House

キタコブシ賞：倉本龍彦

- 9月15日 JIA東北支部宮城地域会・北海道住宅見学ツアーへの協力
協力者：赤坂真一郎・遠藤謙一良・小室雅伸・照井康徳
前川尚治・山本亜耕

11月29日～12月1日

JIA 建築家大会 2012 横浜

住宅部会連絡会議出席
住宅模型展出展

出席者：前川尚治
出展者：赤坂真一郎
五十嵐雄祐
石塚和彦
大田司
灘本幸子
講師：圓山彬雄

模型展セミナー

12月12日 住宅賞授賞式 (KBビル5階 (画工房) ケニー・バレル)
1月31日 第2回 住宅部会 世話人会 開催

以上が2012年度の住宅部会の活動となります。

2013年度は住宅賞の継続はもちろんのこと、北海道大会関連行事や、会員の皆様も参加できる幅広い活動を考え、進めてまいります。

住宅賞 授賞式 キタコブシ賞：倉本龍彦



ハルニレ賞：植田暁

フキノトウ賞：石塚和彦



第四回JIA「テスクチャレンジ設計コンペ」

第四回目を迎え、当コンペも益々、設計競技としての質が問われる時代になったように思う。3.11はまさに私たちの社会のいびつさを露わにした。これ以降、建築界においても社会性を背景にした様々な取り組みが一層注目を集めるようになった。今回のテーマは「共有」。近年わたしたちの身の回りにさまざまなかたちの「シェア」が増えているがこの「共有」という概念はこれからの住いにかなる可能性を与えるのか？長らく続いた「個人のため」の時代を越えて新たな暮らしの提案を求めるものとした。テーマ：「寒冷地で共有する住いのかたち」 自立する未来に向けて

■公開審査の様子

J I A北海道支部 2012年度支部事業 事業委員長 小杉朋希 コンペ実行委員長 大杉 崇

日時 2013年3月24日（日） 10：30～16：00

場所 札幌駅前地下広場 北大通交差点広場 東

審査 委員長 齋藤雅也 （北海道札幌市立大学デザイン学部大学院デザイン研究科准教授）

委員 上遠野 克 （建築家 J I A北海道支部支部長）

桜庭 高光 （㈱テスク代表取締役社長）

福島 明 （北方建築総合研究所 副所長）

清水郁江 （第3回コンペ最優秀賞受賞者）

灘本幸子 （建築家 J I A北海道支部）

登尾未佳 （編集者、ライター、ジャーナリスト）

後援 国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市、独立行政法人 北方建築総合研究所、札幌商工会議所、財団法人 北海道建築指導センター、社団法人 日本建築家協会東北支部、社団法人 日本建築学会北海道支部、社団法人 北海道建築士会、社団法人 北海道建築士事務所協会、社団法人 北海道建築技術協会、社団法人 インテリア産業協会北海道支部、社団法人 日本建築積算協会北海道支部、一般社団法人 日本建築構造技術者協会北海道支部、北海道インテリアプランナー協会、北海道インテリアコーディネーター協会、北海道設備設計事務所協会、新建築家技術者集団北海道支部、北海道デザイン協議会、株式会社 北海道新聞社、株式会社 テレビ北海道、FMノースウェーブ、株式会社 札幌社、株式会社 北海道建設新聞社、株式会社 北海道住宅通信社

■入 賞

最優秀賞---個性の塔と彩りのスキマ道 高村裕太郎

優秀賞-----shinakिया 高橋 慶多・佐藤 友紀

優秀賞-----ある共有のかたち 狩原 拓巳・安澤 和馬

3月24日に公開審査を札幌駅前通地下歩行空間 北大通交差点広場 <東>にて行いました。今回のエントリー数は60組。作品は最終的に20作品が提出され、全て審査対象として会場に掲示されました。今回、運営上の新たな試みとしてコンペのホームページをフェイスブックに改め、公開審査まで様々な情報を実行委員が書き込むことで参加者の興味を低下させないように特に配慮しました。また作品提出締切り後すぐに全作品をUPし事前公開すると共にweb上で積極的なPRを行った結果、公開審査直前には1000アクセス/日を突破する反響がありSNSメディアの普及の大きさを実感する結果となりました。当コンペの特徴でもある社会性の高いテーマ設定に対して審査委員団の選抜は非常に苦慮しましたが、半数を女性とすること、建築家のみならず、北海道の特徴である環境工学分野からも選抜すること、ジャーナリストを加えること等の新たな方針により、様々な分野からより客観性の高い講評を得ようと努力しました。朝から夕方までの長丁場となりましたが市民の来場者も多く、二次審査に勝ち残った8組によるプレゼンテーションは前回同様白熱したものとなりました。審査の進捗を逐一フェイスブックにUPすることも行った結果、会場に来られない人たちがWEB上でリアルタイムに審査の行方を見守るというコンペの楽しみ方も発見し盛り多いものとなりました。 記： 山本亜耕（J I A北海道支部 環境部会代表世話人）



公開審査の様子 二次審査に残った設計者が順番にプレゼンを行う。持ち時間は5分/人



二次審査の後半は立ち見も出て参加者の関心の高さを実感した。



発表者には審査委員からしばしばすどい質問も飛び出す。



司会を務めたコンペ実行委員長の大杉氏。